



1962年から続く
伝統行事
六甲登山
を
実施しました



テーマは「文藝の
巔(いたadaki)」
甲南祭
を
開催しました



11月には、恒例の六甲登山に高校生・中学生たちが挑みました。六甲登山の始まりは1962年までさかのぼります。それまで体育行事の一つとして行われていた長距離競走(阪急沿線の往復マラソン)が、走路の交通量が増してきたことで実施が難しくなり、代わる体育行事として裏山の六甲山系を踏破する計画がもちあがりました。

第1回の六甲登山では、高校生と中学生にそれぞれ別のコースが設定されていました。高校生は保久良神社から横池を通り、お多福山で昼食、下山して芦有道路から、当時芦屋に新築されつつあった現在の校舎を見学して解散というコースを歩きました。以来、高校生・中学生それぞれのコース変更を重ねながら、毎年11月初旬〜中旬の恒例行事として定着していきます。

現在の六甲登山は、高校生と中学生が一緒にグループを組み、全員が同じコースを登っていきます。2024年は、高座の滝から六甲山に入り、ロックガーデンや風吹岩を通り抜け、六甲山山頂を目標に有馬まで歩いて楽しみました。11月とは思えないほどの汗ばむ陽気の中、紅葉を楽しむというよりは、乾燥した空気の影響で砂埃が立つことも多く、厳しい日差しにさらされて、例年よりも過酷なコンディションであったと感じています。しかし、生徒たちは互いに励まし合いながら、無事に登山を終えることができました。それぞれが踏破した達成感が得られたことはもちろん、自然の厳しさと美しさを同時に体感した思い出深い一日となったことでしょう。



晴天に恵まれ、六甲登山で
自然の厳しさと美しさを体感

「文藝の巔」をテーマに掲げ、9月29、30日の両日、文化祭「甲南祭」を開催しました。前年テーマ「文藝復興」から、さらに充実した文化祭となるように、生徒たちは「巔」をめざしました。

文化部の展示では生徒たちが専門分野を熱心に説明。生物研究部はホルライカの解剖を実演し、物理研究部は自作のプラネタリウムや、ArduinoとC++で再現したチェビシェフの四足歩行ロボットで来場者を楽しませました。また、グローバルスタディプログラムでは、世界遺産を再現したジオラマを展示しました。各学年の展示は、探究学習の成果が充実。高校三年生による「神戸の発展と福原京に関する考察」や、「二宮のカルス培養実験(未分化の細胞の塊からクローン作成の経緯)」など、興味深い成果が示されました。甲南三学園環境学習では、卒業生や甲南大学の教員の協力によって、不要になった材木で絵馬やお箸、箸置き作りの体験が行われました。

歓声や拍手で賑やかだったのは、運動部などの有志によるストラックアウトや射的のゲーム、ブラスアンサンブル部などの演奏、タレントショー、カラオケコンテスト、応援団の演舞、また、中学1年生が授業で練習した英語の歌の披露も。ドーナツや揚げパン、カステラ、たこ焼きなど、OB企業とのコラボによる模擬店も活気がありました。

優秀な展示に贈られる文化大賞は、物理研究部と甲南三学園環境学習グループが受賞。大盛況で甲南祭はフィナーレを迎えました。



前年をさらに超え
巔(いたadaki)をめざした甲南祭